



大間建第 6 号
平成19年5月2日

国土交通省道路局長 殿

大間町長 金 澤 満



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について（回答）

陽春の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

貴国道企第114号にて依頼がありました標記について、別記のとおり意見書を提出させていただきますのでよろしくお願い致します。

今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

・ 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

大間町では、国のエネルギー政策である核燃料サイクル計画を推進する上で極めて重要な大間原子力発電所の計画が進められています。本計画は電源開発(株)を事業主として平成19年8月工事着手・平成24年3月運転開始を目指すもので、現在新耐震指針に基づく審査が行われています。

このようなプロジェクトが進められる中であって、道路は単なる生活道路にとどまらず原子力防災上大きな役割を果たさなければなりません。特に国道279号・338号は国家プロジェクトが集中する下北半島にあって極めて重要な路線であることから、地域住民の安全・安心を確保する上でも集落内の狭隘区間のバイパス化や、除雪を見込んだ幅員の確保等抜本的な見直しが必要であることから、国直轄の路線として発電所運転開始の平成24年を目途として整備促進を図って頂きたい。

併せて国道279号線を補完する県道川内佐井線・薬研佐井線を冬期間通行可能な道路として整備促進を図って頂きたい。

・ 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

道路は、地域の風土気候など各地域の実情に応じて整備されるべきと考えます。積雪地帯である下北半島における道路整備状況のなかで非効率的と考えられるものがあります。例えば、国道279号の木野部峠のような殆んど歩行者の無い箇所に歩道が設置されています。木野部峠に必要なのは歩道でなく「ゆずりあい車線」と冬期間の除雪対策であると考えます。このことひとつとっても地域の実情が反映されていません。今後の道路整備計画において改善を図って頂きたい。

・ その他、道路政策や道路の整備・管理全般について

国道279号・338号は函館市を基点としており、大間・函館間のフェリーボートが国道の役割を果たしています。このことから、監督部署の枠を超えた整備計画の作成と支援体制を確立して頂きたい。